



Ryukoku University



Center Report

龍谷大学 学修支援・教育開発センター 通信

2022-2

2022, Number 02
CONTENTS

学舎間連携授業「データサイエンス・AI入門」の開講	3
【FD研修会】ルーブリックの活用 ～ライティングサポートセンターの事例から～	4
2022年度第1学期(前期)ライティングサポートセンター活動報告	5
【FDフォーラム】新学習指導要領と高大接続 —新学習指導要領で変わる高校教育と大学に求められる教育—	6
2022年度 GPS-Academicの受検結果	8
2022年度自己応募研究プロジェクト 中間報告会 一覧	10
「学生による学期末の授業アンケート」実施状況(実施率・回答率)一覧	10
新着図書紹介	11

学舎間連携授業「データサイエンス・AI入門」の開講

2022年9月2日(金)から8日(木)、「データサイエンス・AI入門」(サマーセッション集中講義・担当:先端理工学部 藤田 和弘教授)において、グループワークを取り入れた学舎間連携授業を実施しました。

本科目は、2022年度に開設した、龍谷大学「データサイエンス・AIリテラシープログラム」の必修科目として位置づけられている科目で、2022年度以降入学生を対象に開講しているものです。



6日間の集中講義では、9学部の約100名の学生が、深草学舎と瀬田学舎のそれぞれの教室に分かれて受講しました。



深草学舎の様子



瀬田学舎の様子

本科目では、放送大学の教材を用いて【導入】「社会におけるデータ・AI利活用」、【基礎】「データリテラシー」、【心得】「データ・AI利活用における留意事項」を学び、さらに、グループワークによる意見交換や、BIツールの一つである「Googleデータポータル」を使ったデータの可視化(グラフ化)の実習を行いました。



グループワークにおいては、「無人コンビニの長所・短所」や「データ・AIが引き起こす課題」をテーマに、GoogleスプレッドシートとGoogleスライドで共同編集後、ワールドバザール方式でグループ間を移動しながら意見交換を行いました。

龍谷大学「データサイエンス・AIリテラシープログラム」

本科目(「データサイエンス・AI入門」(2単位))と「プログラム指定科目」(2単位以上)で構成するプログラムであり、2科目4単位の修得をプログラム修了要件としています。今後、本科目の合格者からプログラム修了者を輩出することとなります。今後の龍谷大学「データサイエンス・AIリテラシープログラム」の展開にご注目ください。

2022年9月30日(金)に「ルーブリックの活用 ~ライティングサポートセンターの事例から~」と題して、FD研修会をオンラインで開催しました。当日は、28名の参加があり、ライティングスーパーバイザーの島村健司先生よりルーブリックの概要や活用事例についてご紹介いただきました。

龍谷大学ライティングサポートセンターでは、相談対応にあたるチューターの成長度を測るため、ルーブリックを導入しています。このルーブリックは、チューターとしての成長を測り今後のチューター業務向上につなげること、チューター業務から大学院生としての成長に役立つ点を認識し、大学院生に必要な能力の向上に生かすことを目的としたものです。ルーブリックの評価結果から、チューターとしても大学院生としても各項目で伸びがみられ、成長の度合いが可視化できています。

2022年度第2学期(後期)よりライティングサポートセンターを利用する学生に対してもアカデミックライティングに関するルーブリックを取り入れます。このルーブリックは、論証型レポートや卒業論文など、アカデミックライティングの能力が必要な場面において、自分が理解できていることや実際にしたことなどの到達度を測る指標となります。また、今の自分を認識することや、次に何をすればよいかを考えるきっかけを作ることができます。



FD研修会
ルーブリックの活用
ライティングサポートセンターの事例から
開催日時 9月30日(金) 15:15~16:45
開催方法 オンライン(ZOOM)
※詳細は申込者に別途ご案内します
申込期限: 9月29日(木) 申込フォーム
講師 島村健司(ライティングサポートセンタースーパーバイザー)
対象 本学教職員(特任・非常勤講師含む)
龍谷大学ライティングサポートセンターでは、相談対応にあたるチューターの成長度を測るため、ルーブリックを導入しています。2022年度後期より新たに利用する学生に対してもアカデミックライティングに関するルーブリックを取り入れます。このルーブリックは、論証型レポートや卒業論文など、アカデミックライティングの能力が必要な場面において、自分が理解できていることや実際にしたことなどの到達度を測る指標となります。また、今の自分を認識することや、次に何をすればよいかを考えるきっかけを作ります。
問合せ先 学修支援・教育開発センター(教学企画部) e-mail: dche@sd.ryukoku.ac.jp

1. ルーブリックとは

◆基本構成

観点	説明	評価の基準				
		4+	4	3	2	1
A 主張・論点の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめています。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめています。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめています。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめています。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。	
B 視覚情報・資料の扱い	視覚的な情報(図表、イラスト等)や資料(配布物等)を効果的に活用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に活用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に活用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に活用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に活用していない形で提示している。	
C プレゼンテーション全体の構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	筋道の立っていない順序で話している。	
D 発表の態度	聴者の発表態度がプレゼンテーションの内容を認識しており、自信をもって話している。	聴者の発表態度がプレゼンテーションの内容を認識しており、自信をもって話している。	聴者の発表態度がプレゼンテーションの内容を認識しており、自信をもって話している。	聴者の発表態度がプレゼンテーションの内容を認識しており、自信をもって話している。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。	

表1: プレゼンテーションに関するルーブリック

龍谷大学では、2021年11月に「ルーブリック作成ガイドブック」を作成し、全学的にルーブリックの活用を促進しています。

ルーブリック作成ガイドブック

ルーブリックの種類や活用方法を提示するとともに、参考となるテンプレート(コモン・ルーブリック)を例示することで、授業改善を支援することを目的に「ルーブリック作成ガイドブック」を作成しています。ルーブリックは、教員・学生の双方にとって意義があり、授業改善に役立つツールです。

ルーブリック作成ガイドブックは、学修支援・教育開発センターホームページで公開しています。

https://fd.ryukoku.ac.jp/biz_content2/project1/data/rubric.pdf



ライティングサポートセンターでは、本学学生のレポートや卒業論文などのライティングにまつわる相談に応じ、それらを支援しています。2022年度第1学期(前期)は以下のとおり、支援を実施しました。

〈相談対応事業〉

1. 相談実績

- (1) 開室日数: 67日(昨年度: 71日)
授業実施期間中および定期試験期間中に開室
- (2) 相談者数: 526人(のべ) (うち初めての利用者数: 349人) (昨年度: 217人)
- (3) 1日平均利用者数: 対面3.4人、オンライン0.2人(昨年度: オンラインのみの実施3.0人)
※小数第2位四捨五入、以下同じ
- (4) 相談者の内訳

①学部(大学院)学年別(人) ※表中、国際は国際文化を含む。また、先端理工は理工を含む。

学部/研究科	1年生	2年生	3年生	4年生以上	修士	博士	学部別合計	
							人数	割合
文	107	65	14	9	5	7	207	39.2%
経済	0	0	8	4	3	0	15	2.9%
経営	8	0	6	0	0	0	14	2.7%
法	8	2	1	0	0	0	11	2.1%
政策	4	1	3	2	0	0	10	1.9%
国際	101	16	9	13	0	0	139	26.5%
先端理工	8	2	0	2	0	0	12	2.3%
社会	24	22	1	11	2	0	60	11.4%
農	11	6	3	4	0	0	24	4.6%
短期大学部	31	3	0	0	0	0	34	6.5%
学年	人数	117	45	45	10	7	526	100%
	割合	57.5%	22.1%	8.6%	1.9%	1.3%	100%	100%

*その他は、印刷方法2件、感想文2件、書評1件、履修について1件。

②相談内容の種別

※1回のセッションで複数の種別対応をしたケースを含む。

分類項目	件数	割合(%)
卒論・卒研	37	7.0%
レポート	427	81.3%
プレゼン(ゼミ発表・レジュメ)	51	9.7%
ゼミの志望理由書	3	0.6%
修士論文	0	0%
研究計画書	7	1.3%
就職関係の文書	3	0.6%
留学関係の文書	11	2.1%
奨学金関係の文書	5	1.0%
その他	6	1.1%

〈相談対応以外の事業〉

1. 講習会

講習会は通常の相談対応とは異なり、ライティングスーパーバイザーやチューターが講師となり、これまで蓄積された相談者のデータをもとに学生がつまづきやすい内容をピックアップして実施しています。本年度は対面とオンラインのハイブリッドで昼休みにおこないました。

講習テーマ	実施形態	実施日	時間帯	参加者数
レポートのタイプを知る	ハイブリッド (GoogleMeet + 和顔館アクティビティホール)	5/18(水)	12:40	8
レポートの実際を知るー論証とはー		5/25(水)	13:20	7
		合計		15

2. 部署連携による講習会・研修等

- (1) 高大連携推進室との連携による講習会等
日時: 5月10日(火) 14:30~15:00
場所: 龍谷大学附属平安高等学校
テーマ: どういうふうを書く 大学で書く学びにつなげるヒント
対象: 同校3年生
解説者: ライティングスーパーバイザー
概要: 感想文とレポートのちがいが、および一文一義で書く意義を解説しました。
- (2) 学生部との連携による講習会
日時: 5月11日(水) 12:40~13:20
場所: オンライン(zoom)
テーマ: なるほど、レポートのコツ
解説者: ライティングスーパーバイザー(センター紹介でチューターからの一言アピールあり)
概要: 感想文とレポートのちがいが、およびレポートのタイプに応じた書き方を解説しました。
参加者: 108人(関係者除く)
- (3) 社会学部コミュニティマネジメント学科ゼミサポーターへのレポート添削方法研修
日時: 5月27日(金) 昼休み時間帯
場所: オンライン(zoom)
解説者: ライティングスーパーバイザー
参加者(CM学科): 坂本 清彦先生、築地 達郎先生、松本 拓先生、ゼミサポーター3人
- (4) 図書館(おすすめ本)
目的: 学生のライティング能力に必要なリーディングの促進
対象館: 深草・大宮・瀬田
期間: 6月1日~8月1日
テーマ: きのう何読んだ?
コンセプト: 大学の学びは、読むことから始まる場面が多い。読書に慣れるためにも、まず興味関心を広げることが必要です。知り合いに「何読んだ?」と問い合える、そのような場面づくりに貢献したいという思いから、ライティングサポートセンターのチューターが、学部生であった経験を生かして厳選した本を提示する企画です。

3. 出張講習会

出張講習は、科目担当教員の依頼(原則、1年次生受講科目)に基づき、ライティングスーパーバイザーやライティングチューターが授業内でレポートの作成において必要な内容(論文の構成・引用の方法等)をテーマに60分の講義を行うものです。対面及びオンラインで実施しました。

- ①出張講習
教員: 上田 有里奈先生(経済学部)
科目名: 入門演習
受講者数: 20名
テーマ: レポートにおけるテーマの絞り方
実施: 6月1日(水) 3講時
実施場所: 和顔館205教室
解説者: ライティングスーパーバイザー
- ②出張講習
教員: 中田 裕子先生(農学部)
科目名: アジアの歴史A
受講者数: 236人
テーマ: レポートの作り方Aー構成を知ろう
実施: 6月21日(火) 3講時
実施場所: オンライン(Google meet)
解説者: チューター・リーダー

2022年12月21日(水)にFDフォーラム2022「新学習指導要領と高大接続—新学習指導要領で変わる高校教育と大学に求められる教育—」を開催しました。(対面・オンライン(Zoom)併用)

高校現場において、2022年度入学の生徒から新学習指導要領に則った教育が始まりました。全ての教科において、「なぜそのような事象が起きたのか」という問いを立て、調べるといった探究型に学習形態が変化しています。学習の評価も、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的学習に取り組む態度」の3つの観点での観点別評価に変更されています。すでに新学習指導要領の目指す学びを体感している高校生もいます。今の高校での学びを知り、大学に求められる教育を見据えたカリキュラム、授業の改善を考える機会となるよう、本フォーラムを企画しました。



塩瀬 隆之氏
京都大学総合博物館准教授

今回は、探究型学習で必要とされるデザイン思考に関する著作をお持ちで、学校現場のアドバイスや各地でのご講演をはじめ、文科省中教審委員や2025年の万博日本館基本構想有識者委員会座長等でご活躍されている京都大学 総合博物館 准教授 塩瀬 隆之氏を講師にお迎えしました。ご講演は塩瀬氏が実際に高校生や学生に対して活用されているツールの一つ“slido”を活用されました。参加者からの質問や投票によって理解度を確認し、講師と参加者が双方向に活発なやり取りをしながら進められました。“slido”に限らず、授業が一方にならないためのツールが多く開発されています。ツールごとにメリット、デメリットがある(例えば、匿名での回答か、記名での回答かなど)ため、授業が目指すところに合わせて使い分けることでよりよい授業運営が可能となるいい事例紹介にもなりました。

新学習指導要領と高大接続について、Society 5.0、新学習指導要領、SDGs、18歳成人をキーワードにご説明いただきました。

まず、Society 5.0人材を育成するとされているが、Society 5.0人材とはそもそもどのような人材なのかという問いがありました。Society 5.0とは何なのか、大学がどこまでSociety 5.0に対応するのか、機会を作り、教員、職員自らが考える必要があります。

次に、新学習指導要領について説明いただきました。社会が求めるものを新学習指導要領が目指しているのであれば、旧来の学習指導要領から学んだ学生に対しても新学習指導要領の目指すところを理解した上で対応することが求められます。例えば、ある生徒が探究学習で40年分の学習指導要領の総則に対してテキストマイニ

ングを実施した例をご紹介いただきました。学習指導要領の変遷が分かりやすく可視化されていました。このように高校時代に卒業研究や卒業論文のような探究学習を経た生徒に対して大学の教育はどうあるべきでしょうか。

これまでの学習は正解を探し、100点を狙うものでした。探究学習は答えがない学習です。答えがない問いに対してどのように対応するか。どのような力を育成するのか。考える必要があります。

つぎに、竹田昌弘氏(龍谷大学 高大連携推進室フェロー/龍谷大学 附属平安高校 教育企画推進フェロー/京都市教育委員会学校指導課 参与)から新学習指導要領における観点別学習状況評価の現状と課題についてご説明いただきました。

新学習指導要領によって、生徒の学習が「生徒を時間で拘束させて勉強させる」から「生徒の主体的な学びを促す方向」に変化しています。



竹田 昌弘氏
龍谷大学 高大連携推進室フェロー
龍谷大学 附属平安高校 教育企画推進フェロー
京都市教育委員会学校指導課 参与

観点別学習状況評価を分析的にとらえ、どの観点で望ましい学習状況、どの観点到課題があるかを「学習改善」や「指導改善」に生かしていくことが重要です。

最後の質疑応答では“slido”を通じて参加者から寄せられた、多くの質問に塩瀬氏、竹田氏から丁寧に回答いただきました。

学内外から多くのお申込みをいただき、当日は、149名(対面31名、オンライン118名)の参加がありました。新学習指導要領で学んだ高校生が大学に進学するのは2025年ですが、それ以前に入学した学生に対しても、新学習指導要領が目指す教育を取り入れることは可能です。現在の在学学生に提供する学習内容についても考え直す機会となりました。

質疑応答



質疑応答

参加者からのアンケート(抜粋)

- まさしく、新学習指導要領と高大接続について2025年以降、大学はどのような学びを提供できるのか? について考えていたところでしたので興味深く拝聴させていただきました。
- 大学に求められている内容と実際(現状)の運用内容、そして、その差分の解消に向けた課題について、改めて考えさせられる貴重な機会となりました。
- 特に高校初年次で学ぶ探究は参考になりました。
- slidoを使用して、参加型の講演でしたので、楽しかったです。
- 「探究」の学びと教え方について、理解を深めることができた。

講演の様子



GPS-Academic 受検結果

龍谷大学では学生向けのアセスメントテストとして、ベネッセi-キャリアの「GPS-Academic」を導入しています。アセスメントテストは、2021年度に策定された「龍谷大学アセスメントプラン」において、学修成果・教育成果を可視化・検証し、改善に取り組むための指標の一つとして設

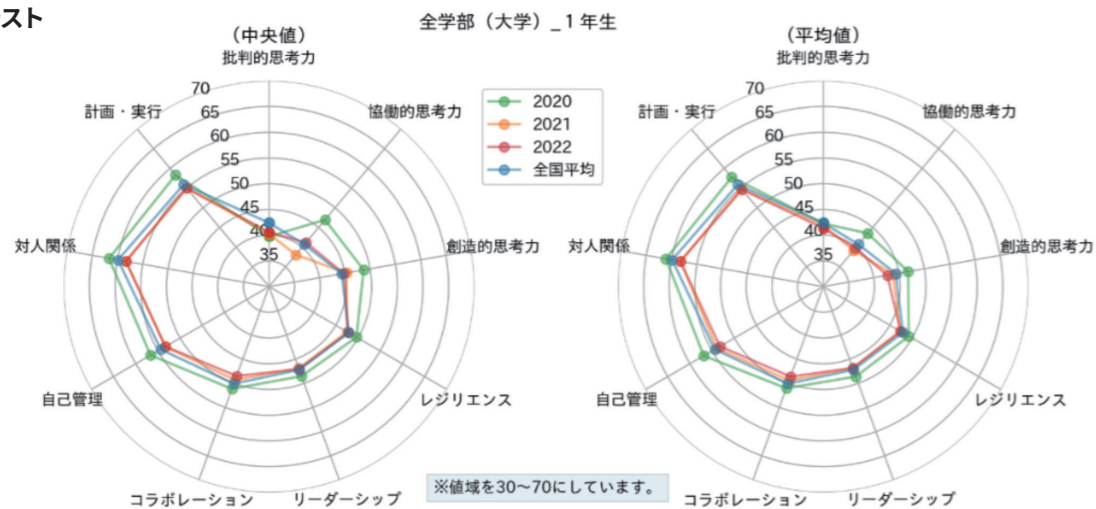
今年度は以下の通り実施しました。

※今年度は、初めて新入生テストと上級生テストを両方受検(2020年度新入生テストおよび2022年度上級生(学部3年次)テストを受検)した年度となります。

	新入生テスト	上級生テスト
実施期間	2022年4月25日(月)～9月5日(月) ※開始日は学部により異なる場合がある	2022年4月25日(月)～12月31日(土) (短期大学部は7/27まで) ※開始日は学部により異なる場合がある
実施方法	web 受検(ベネッセi-キャリアのGPSAcademic受検サイト)	
実施対象	2022年度新入生(5,342名)	2022年度 3年次生(4,725名) 短期大学部 2年次生(189名)
受検率	80%	61%

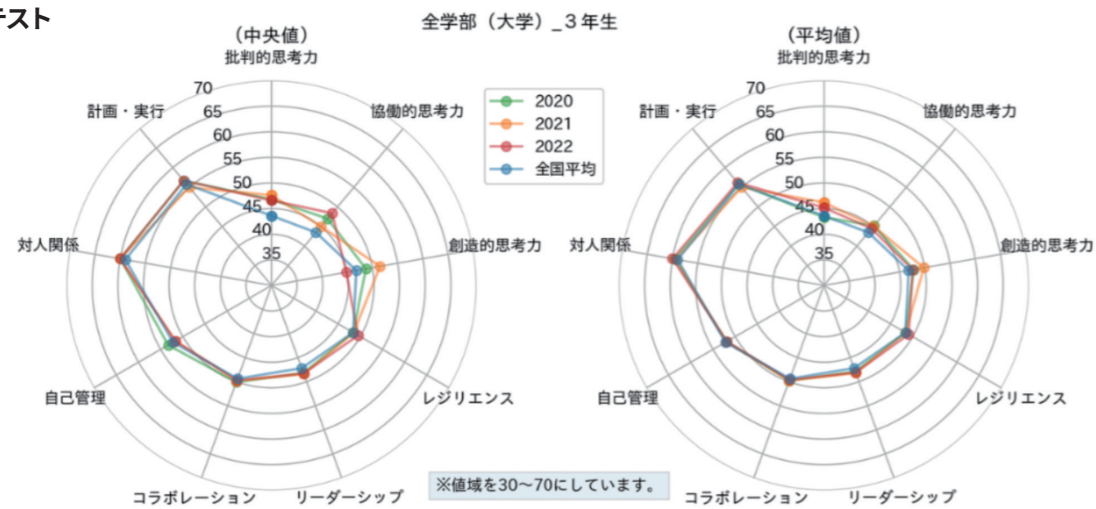
2020～2022 GPS-Academic 結果(中央値・平均値)

新入生テスト



「中央値」「平均値」ともに経年比較すると、2020年度のスコアが高くなっているものの、2021年度2022年度は全国平均と比較して大きな差はなく、平均的な結果となっています。

上級生テスト



「中央値」について、3つの思考力で若干の差があるものの、姿勢・態度、経験については全国平均と比較して大きな差はなく、平均的な結果となっています。「平均値」については思考力、姿勢・態度、経験において全国平均と比較して大きな差はなく、平均的な結果となっています。

定されており、GPS-Academicでは学生の「思考力」、「姿勢・態度」、「経験」の測定を行うことができます。新入生テストは2020年度から、上級生テスト(学部3年次・短期大学部2年次)は2018年度から全学部を対象に実施しています。

課題解決のために必要な「問題を解決する力」を可視化できるアセスメントです。「問題を解決する力」を「思考力」「姿勢・態度」「経験」という3つの観点で測定し、学生のモチベーション、大学教育の成果検証、キャリア教育などで活用することができます。

思考力

思考力を、「社会とのつながりを重視した素材」で測定します。学生が問題を解くことを通じて新しい気づきを得たり、学生の学びに結びついたりすることを目指しています。

姿勢・態度

「レジリエンス」「リーダーシップ」「コラボレーション」という3つの観点で、「姿勢・態度」を評価します。「自分をよく見せる回答」がしばしば設問形式が特色です。

経験

「思考力」や「姿勢・態度」は、問題解決にかかわる経験を繰り返すことで身につけていくと考えています。

学生は、受検後すぐに「個人結果レポート」(受検結果)を確認することができます。「個人結果レポート」には、思考力の到達目標とともに、自身の強み・弱みが記載され、客観的に把握できます。また、その力を身につけるために必要な学生時代の経験についても、アドバイスを得ることができます。

3つの思考力別に到達度をグラデーションでグラフ表示しています。「前回からの変化」「卒業までに目指したい」A評価との差「自己評価との差」をそれぞれ確認することができます

問題解決に向かう姿勢・態度を8つの項目別に、それぞれS～Dの5段階で評価しています。レーダーチャートによって、現時点で自分がどのようなことに前向きかを把握することができます。

「思考力」「姿勢・態度」「経験」の全体結果を確認できます。

思考力、姿勢・態度、経験別に、S～Dの5段階で評価して問題解決の力がどの程度身につけているか確認することができます。

思考力、姿勢・態度、経験別に、レーダーチャートで結果を確認することで、現時点での自分の力のバランスを視覚的にイメージすることができます。

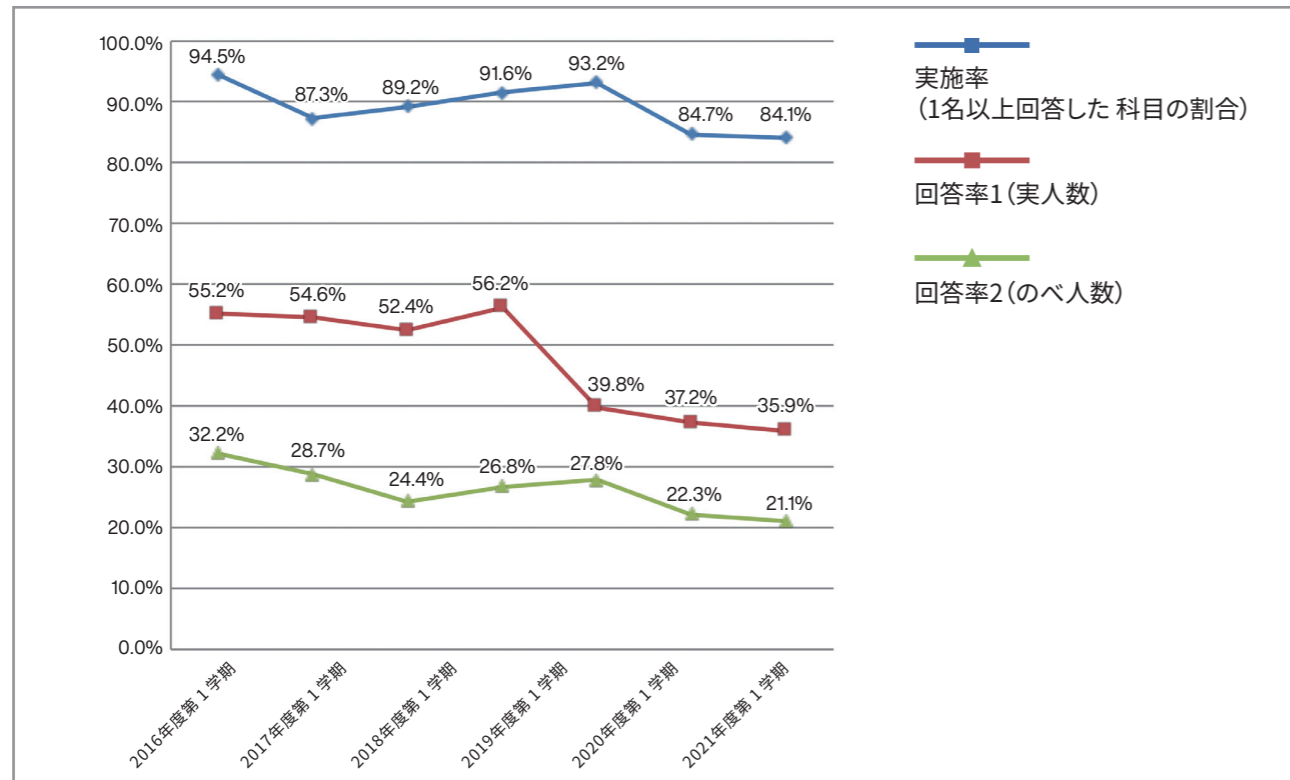
今後、積んでいくべき経験をアドバイス。日々の生活の仕方だけでなく、大学でどのような科目を履修するか、留学やアルバイト、ボランティアなど具体的にできることを考えるきっかけを与えます。

思考力、姿勢・態度、経験を伸ばすために必要な経験について、現時点でどのくらいできていると認識しているかを示しています。

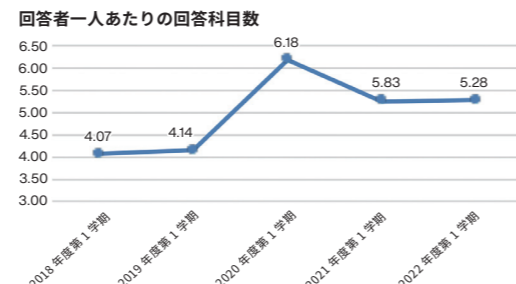
2022年度自己応募研究プロジェクト 中間報告会 一覧

代表者名	プロジェクトテーマ	日 時	実施形態	中間報告テーマ	中間報告概要
小正 浩徳 (文学部)	中途退学の予防に向けた大学適応感質問紙の活用 II	2023年 2月1日 (水)	個別開催	中途退学の予防に向けた大学適応感質問紙の活用	当研究では、同一年度内においておよそ3カ月おきに学生へ実施することによる大学適応感の変化を確認し、大学適応感の推移についても明らかにしようと試みている。分析中ではあるものの、新年度開始後1か月ほど経った5月時点で、大学をやめようと思っている学生とそうではない学生の大学適応感に差があることなどが推察されており、結果分析の中間報告を実施する。
吉川 悟 (文学部)	ロールプレイングによる複数面接のトレーニング	2022年 11月18日 (金)	センター会議内で報告	ロールプレイングによる複数面接のトレーニング	複数人を対象とした面接では、従来の心理療法の前提である個人面接とは異なる手法が必要となる。本研究のシステムズアプローチによる複数面接の教育手法について中間報告を実施する。
竹内 綱史 (経営学部)	最新の研究状況を反映した汎用的な宗教学の教科書作成	11月頃	個別開催	『3STEP 宗教学』のコンセプトについて	現在作成中の教科書『3STEP 宗教学』(昭和堂、2023年3月刊行予定)のコンセプトについて、序章と終章の草稿を検討することを通じて確認・討論を行う。
生駒 幸子 (短期大学部)	保育者養成科目「保育内容(言葉)」における保育活動の学修に関する授業改善	2022年 7月12日 (火) 1、2、3講時	公開授業	教材研究に基づく保育活動の考案・実践を実現するアクティブラーニング・プログラムの検討	乳幼児の保育活動(遊び)の考案には、発達理解と十分な教材研究が必須である。言葉をもつ児童文化財(絵本)研究を中心に、【STEP1】教材研究【STEP2】保育活動の考案、【STEP3】保育活動の具体的な展開という一連の流れを持つ学修プロジェクト「子どもと絵本の世界を楽しもう」に、学生たちが取り組んだ学修成果を発表する。
堺 恵 (短期大学部)	施設実習の事前学習に用いる視聴覚教材の開発と活用	12月2日 (金)	センター会議内で報告	施設実習の事前学習に用いる視聴覚教材の開発 —児童養護施設版—	本プロジェクトでは、保育者を指す学生が施設へ実習に行く際の事前学習において、その学びを円滑にする視聴覚教材の開発を目指している。2022年度は、次の2点を本プロジェクトの到達点として設定した。1点目は、配属される学生数の多い児童養護施設に特化し、事前学習に用いる視聴覚教材にどのようなコンテンツが必要かを試案することである。2点目は、既に試案したコンテンツに対して、児童養護施設の関係者や教職員、学生からの意見を求めることにより、コンテンツを確定することである。中間報告では、主に1点目のコンテンツの試案について報告する。

「学生による学期末の授業アンケート」実施状況(実施率・回答率) 一覧

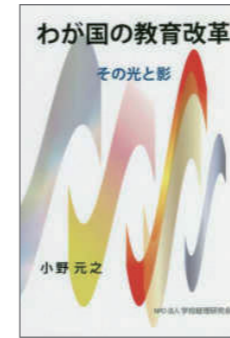


- 実施率1
回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100
- 回答率1(実人数回答率)
実回答者数÷実受講登録者数×100
(実回答者数) 1学生が1以上の科目を回答 → 1とカウント
(実受講登録者数) 1学生が複数の対象科目を有する → 1とカウント
- 回答率2……【延べ人数回答率】
回答者数÷受講登録者数×100



新着図書紹介

わが国の教育改革 その光と影



著者は初代文部科学事務次官(平成13年1月~15年1月)を務め、在任中はゆとり教育の是正、国立大学法人化等に強力なリーダーシップを発揮してきた。本書は、指導力不足の教員への対応、道德教育の充実、大学の学生の質の保証、大学入試改革、ゆとり教育の見直し、学習指導要領の改訂、国立大学改革、ICT教育の充実、大学・大学院の教育研究力の向上、大学のガバナンス改革、教員の働き方改革など様々な課題を取り上げて、わが国の教育改革の現状を分かりやすく解説したものである。

出版年月: 2022年3月
編著: 小野 元之
発行所: NPO法人 学校経理研究会
価格: 2,860円(税込)

ページ数: 250p
大きさ: A5判
ISBN: 9784876029013

シリーズ大学教育の質保証 カリキュラムの編成



大学教育の質保証を推進する教職員として必要な知識を提供するシリーズ。大学が主体的にカリキュラムを編成するための実践的な方法を体系的に解説する。基本的知識に加え、さまざまな編成方法の選択肢を提示。質保証だけでなくカリキュラムの特色を打ち出していく面も重視し、さらに組織内での進め方についても取り上げる。

出版年月: 2022年9月
編著: 中井 俊樹
著: 上月 翔太/橋本 規孝
発行所: 玉川大学出版部
価格: 2,000円(税抜)

ページ数: 173p
大きさ: A5判
ISBN: 9784472406249

シリーズ大学の教授法6 授業改善



学生の学習意欲を喚起し学びを深めるとともに、教員の教育スキルを向上させるために不可欠な授業改善。その意義や価値を明らかにし、体系的な知識や技術を提供する。授業の記録とその分析、授業評価アンケートの活用など、シラバスやカリキュラムの改善につなげる方法を具体的に示し、効率的で実践的な授業改善モデルを提案。

出版年月: 2021年3月
編著: 佐藤 浩章/栗田 佳代子
発行所: 玉川大学出版部
価格: 2,640円(税抜)

ページ数: 216p
大きさ: A5判
ISBN: 9784472405365

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購入し、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1.お名前、2.ご所属、3.教員/職員の別、4.貸出希望の書名、5.著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。詳細は、https://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher2/ をご参照ください。



大学IR標準ガイドブック インスティテュショナル・リサーチのノウハウと実践



IRとは何でしょうか。第一に、IRは「教育機関の」意思決定を支援する活動と位置付けられています。違う言い方をすれば、個々の学生や教職員を支援するのではなく、組織としての教育機関、あるいはその部局の意思決定を支援します。学生や教職員は、間接的な受益者になります。

第二に、IRは業務であると同時に研究であるということです。リサーチという言葉の二重性(調査・研究)も一つの意味を持つ原因の1つですが、日米ともにデータの分析・可視化を中心とした業務が先行している一方で、IR担当者による学術研究成果の発表や理論構築も行われるという現状は広く認識されています。

本書では、IRの組織、制度、実際に分析作業をするときの留意点などに注目し、基本的なノウハウの共有やテクニカルな課題解決に資することを目指しています。本書の読者として想定されているのは、高等教育機関のIR担当者ですが、それ以外にも学部や研究支援関係のデータを扱う部署の職員、大学経営に関わる方にも目を通していただきたい部分が多岐にわたります。IRのノウハウを知ることは、エビデンスベースあるいはエビデンスインフォームドによる意思決定への第一歩です。本書の内容は、大学IRの必要性(第1章)から、組織の立ち上げ(第2章)、ルールの整備(第3章)、データ収集と公表(第4章)、「使える」データにするために必要なこと(第5章)、データ分析の入り口(第6章)、そしてIR活動の推進(第7章)と、最初から順番に進めることで、IR組織の立ち上げからIR活動を軌道に乗せるまでに必要なことや、具体的な取り組みのイメージをつかめるようになっています。

出版年月: 2022年5月
編著: 井芹 俊太郎/近藤 伸彦
発行所: インプレスR&D
価格: 3,080円(税込)

ページ数: 266p
大きさ: B5判
ISBN: 9784295601203

カリフォルニア大学 ガバナンスと戦略

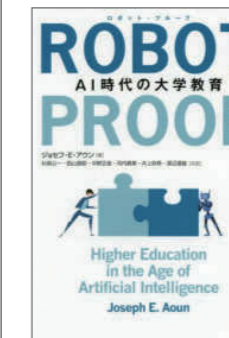


世界最高峰の公立研究大学群の競争性と多様性。カリフォルニア大学は、州立大学としての財政的・社会的制約を受けつつも、財政豊かな私立大学であるハーバード大学やスタンフォード大学、MIT等と伍し、教育と研究の双方において世界的な卓越性を有してきた。本書は著者がカリフォルニア大学総長本部に客員研究員として在籍した機会に、大学関係者への詳細なインタビューや文献調査等を行い、州立大学でありながらアメリカの名門大学の地位を維持してきた大学のガバナンスと戦略、根底にある価値観を明らかにした最新的好著。

出版年月: 2021年11月
発行所: 東信堂
価格: 2,860円(税別)
ページ数: 234p

大きさ: A5判
ISBN: 9784798917290

ROBOT PROOF AI時代の大学教育



人工知能(AI)とロボット技術の進化は、「ホワイトカラー大失業」の時代をもたらすといわれる。産業構造の大変革に直面した人々を助けてきたのは、いつの時代も教育だった。AIとロボットが席巻し始めた現在「大学」には何ができるのか? 大学はいつか、AI化・ロボット化した社会・経済を闊歩できる人材、つまり「ロボット・プルーフ(Robot-Proof)な卒業生を輩出できるのか? この挑戦で先陣を切るのか、アメリカ東海岸の名門校、ノースイースタン大学だ。従来の専門知識に加え、大学で身につけるべき「新しいリテラシー」を定義し、とくに実世界に出て行う「経験学習」を重視。世界中の130か国・3000社以上の企業に学部生を送り出す「コーオプログラム」、分野の垣根を越えた高度な専門科目を学べる生涯学習プログラムなど、先進的かつ大胆な同大学のアプローチは世界中からの注目を集めている。本書では、その先頭に立つアウン学長が、アメリカ建国以来の大学制度の歩みを踏まえたAI時代の大学像を提示し、同大学の取り組みを紹介する。

出版年月: 2020年1月
編著: アウン, ジョセフ・E.
訳者: 杉森 公一/西山 宣昭/中野 正俊/
河内 真美/井上 咲希/渡辺 達雄
発行所: 森北出版

価格: 2,640円(税抜)
ページ数: 201p
大きさ: B6判
ISBN: 9784627975217

2023年1月発行（通算49号）
編集・発行 龍谷大学 学修支援・教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
075-645-2163 <https://fd.ryukoku.ac.jp/>